

概 要

報告事項：令和 6 年度における第 3 次大津市文化振興計画の進捗状況について

①関連事業の進捗状況（資料 1）

令和 6 年度も、文化振興計画に掲げる各事業はおおむね計画どおりに実施され、ほとんどの事業で掲げている目標の 80%以上を達成するなど、堅調な進捗が見られた。特に、大津市民会館などの指定管理施設においては、前年と比べて利用者数が増加しており、文化芸術に親しむ場づくりにおいて着実な成果を上げている。

また、各種展覧会の継続実施に加え、伝統文化体験教室や歴史博物館の講座・ワークショップなどの参加者も増加しており、市民が文化を表現・鑑賞する機会が広がるとともに、歴史や文化への関心の高まりも感じられる。

一方で、出品者や参加者層の高齢化により構成が固定化していることが、参加者数の減少につながっている事業もあり、担い手不足や次世代への引き継ぎの難しさといった課題も引き続き顕在化している。

こうした課題を踏まえ、今後は若年層や地域の担い手育成に資する仕組みの強化、デジタル技術を活用した情報発信力の向上、ならびに文化施設間の連携促進を通じて、文化の裾野をより一層広げていく取り組みが求められる。

②評価指標の進捗状況（資料 2）

令和 6 年度の評価指標は全 14 項目で構成されており、そのうち 7 項目が令和 5 年度実績を上回り、3 項目が下回る結果となった。なかでも、大河ドラマ『光る君へ』の影響を受けて、文化施設の利用者数が大きく増加した点は特筆すべき成果である。

一方で、文化事業の出品数や参加者数は減少傾向にあり、①でも言及したように、参加者層の固定化が一因と考えられる。これに対しては、柔軟な発信・参加の機会づくりや、世代を超えた関与を促す取り組みの強化が求められる。

また、文化芸術情報サイトに関する評価指標については、令和 6 年度も実績が計上されなかったが、これは対象となる情報サイトが未開設であったことによる。しかし、文化振興課・歴史博物館・文化財保護課が共同で準備を進めてきた「歴史文化情報集約サイト（仮称）」が、令和 6 年度末に開設されており、今後は効果的な情報発信を担う中核的な仕組みとして活用していく。